

政策研究大学院大学

GRIPS Global Governance Program

G-cube

2014-2015



Gateway to
Global Leadership



新規プログラムを 立ちあげるにあたって

政策研究大学院大学長 白石 隆

白石 隆

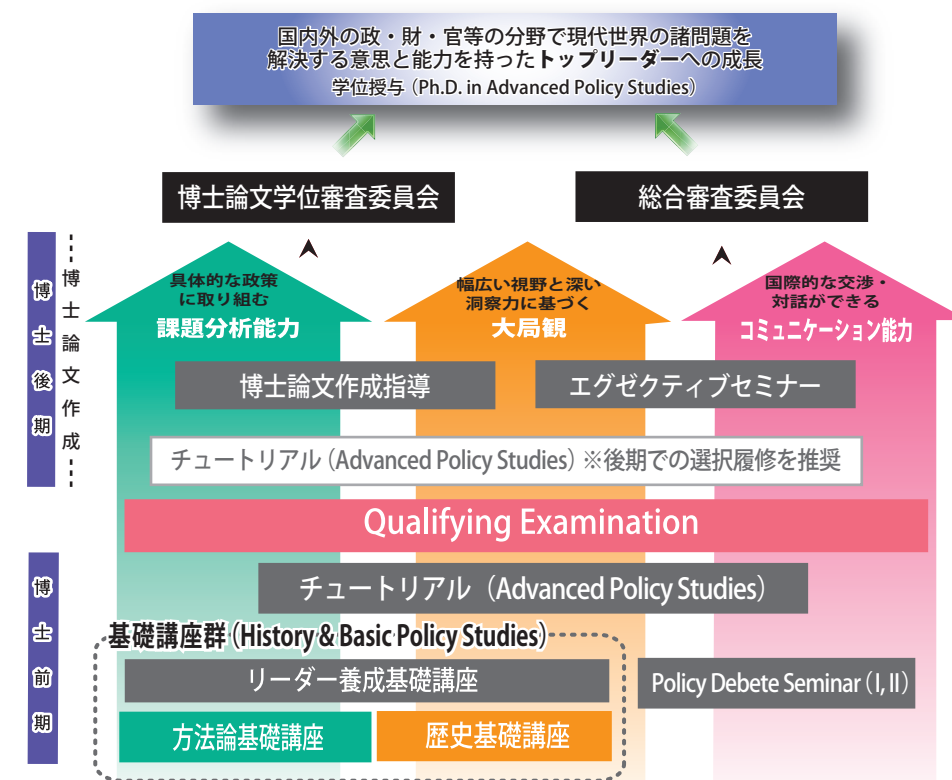
しらいし・たかし

1986年コーネル大学博士号（歴史）取得。
1979年東京大学教養学部助教授、1987-
1996年コーネル大学アジア研究学科・歴史
学科助教授、准教授、教授を経て、1996年
京都大学東南アジア研究センター教授。
2000年本学客員教授、2005年本学副学長、
教授、2007年アジア経済研究所長、2009
年本学客員教授、内閣府総合科学技術会議
議員、2011年本学教授、同年4月に学長就
任。専門分野は地域研究、国際関係論、政
治学。2007年に紫綬褒章受章。

グローバリゼーションの進展は、世界の秩序を大きく変えました。今日、世界の一角で起こったことはたちまち世界中に波及します。新興諸国は、急激な経済成長に伴い、意志決定に及ぼす影響力は拡大しているにもかかわらず、まだ世界をリードする意思も力もありません。一方で、新興諸国の台頭によるガバナンスシステムの変化により、先進国は世界をリードする力を失っています。全体的な意思決定が進まず、今までのやり方では解決できない、困難な諸問題が噴出しています。

このような状況を打破するためには、多くの分野の専門家を束ねる能力を持つリーダーたち、細切れの断片的な知識ではない、より深い教養に支えられ、専門性が進んだことによって生じる分野の壁を越え、その間の溝に橋を架ける能力や広い視野を持ち、大局的に判断する能力を持つ、リーダーのリーダーたちが必要ではないか、と考えました。そして、そのような人材を育てるためには、専門性の高さや広さだけでなく、いわば奥行きが重要と考え、これまで日本では重視されてこなかった歴史や教養を基礎に据え、学生の「物の見方（perspective）」を徹底的に鍛え上げるプログラムを開発することに致しました。

志高い、若き将来のLeader of Leadersたちと会えるのを楽しみにしています。



GRIPS Global Governance Program (G-cube) 概念図

本プログラムでは次の三本柱を中心にカリキュラムを組んでいます。

(1) リーダーとしての基本的素養……複雑化するグローバル社会の中で、国家・国際機関・経済界など様々な場面において、トップリーダーとして深い思慮に基づき、適切な判断・決断を行っていくためには、大局観を持って、個別具体的な問題・課題を大きな枠組みの中で理解し、問題の根源を把握する能力が必要です。そこで歴史を基礎科目とし、現在世界の直面する諸課題を、マクロ的な文脈の中で把握する大局観を涵養します。また、国内外の政・産・官・学等から講師を招き、自らの経験をもとに講義してもらい、そこから基本的素養や様々な物の見方を学んでもらいます。

(2) 個別政策課題についての深い知見と分析能力……現在直面する諸課題に対処するには、個別政策課題についての深い知見と分析能力が必要です。そこで政治、経済、国際関係、科学技術イノベーション、行政組織運営など方法論に関する基礎講座を履修させ、こうした課題についての基本的知見を習得させます。その上で、グローバル・先進国・新興国・途上国の4クラスター別に、少人数によるチュートリアル形式の授業で、各クラスター固有の政策課題等について集中的な議論やディスカッションを行うことにより、深い知見と分析能力を身につけさせます。さらに博士後期課程においては、合宿形式の集中講義・ディスカッション・論文指導を行うエグゼクティブセミナーを実施し、学位プログラムを通して密な指導と新たな刺激が受けられるプログラム構成となっています。

(3) 言語、文化、歴史、専門、国籍を超えたコミュニケーション能力……本プログラムの授業はすべて英語で行います。日本人学生と留学生が、英語で共に学び、協力し競争することで、互いに尊敬し、深いレベルでコミュニケーションできる能力を身につけさせます。また講義の他、シミュレーション等を行うワークショップ形式の授業も取り入れ、学生同士で集中的な議論をすることで相互作用を促し、言語、文化、歴史、専門、国籍を越えて知的な議論を行う能力を身につけさせます。さらに、危機管理時のメディア対応等、リーダーとして様々な公開な場で適切なメッセージを発することができるようになるための、危機管理対応を目的とした実践訓練も行います。また、博士後期課程において国際機関でのインターンシップや海外での研究調査を希望する学生には、経済的側面を含めて支援いたします。

一人一人を丁寧に育てる、チュートリアル形式の指導

本プログラムでは必修科目として、チュートリアル形式の授業を開講します。

チュートリアルとは、欧米の大学などで行われる授業スタイルで、学生数名に対して教員が集中的な指導を行う教授法です。チュートリアルはグローバル、先進国、新興国、途上国の4クラスターに分けられ、学生はそこから主専攻を含めて4つの政策課題を選択します。主専攻クラスター以外からも履修させることにより、比較する視点と広い視野を身につけさせるとともに、教員や学生同士が議論・分析・反論・批評など、密な議論をすることを通じて、個別の政策課題に関する深い知見と分析能力を習得させます。また本プログラムでは議論するだけでなく、小論文形式にまとめさせるという指導方法を取り入れることで、学生が受け身ではなく学問として自ら思考し身に着ける点を重視しています。チュートリアルもすべて英語で行います。

プログラム概要

想定される学生

中央省庁の行政官

国際機関を目指す方

企業等でグローバルに活躍することを目指す方

学位 …… Ph.D. in Advanced Policy Studies

M.A. in Advanced Policy Studies

言語 …… 英語

修了年限 …… 5年（最短3年）

入学時期 …… 10月

修了時期 …… 9月

GRIPS Global Governance Program (G-cube) カリキュラム（予定）	
Category	Course Name
Required Courses	● Leading a Nation in the Changing World ● Perspectives of the World
	● Introduction to Public Policy Studies ● Policy Debate Seminar I-III ● Executive Seminar I-III
Recommended Courses	● Policy Workshop
	● Diplomatic History of Modern Japan ● Comparative State Formation
Elective Courses	● Global Economic History ● International Relations ● Comparative Political Economy
	● Development Economics ● Essential Macroeconomics ● Structure and Processes of Government
Elective Courses	● Comparative Analysis on Science, Technology and Innovation Policy ● Tutorial I-IV
	● Essential Microeconomics ● Microeconomics I ● Macroeconomics I
Elective Courses	● Government and Politics in Japan ● International Political Economy ● International Security Studies
	● Political Economy of Modern Japan ● Introduction to Quantitative Methods ● Introductory Statistics

多様な教員構成

400名の学生に対し、70名以上の専任教員

GRIPSの教員は、国内外から政策研究の先進的研究者を国際公募により登用しているほか、官界、国際開発等の分野において高度な資質を有する実務経験者も結集しており、多様で層の厚い教員組織となっています。さらに本プログラムでは、実際に危機管理をおこなった経験を有する政・財・官・学の各界の指導者を国内外から招いて講師を務めてもらい、密な指導を行うことで、学生にはリーダーとしての資質と素養を身に付けてもらいます。

経済的支援

本プログラムに在籍する学生には、勉強に専念する環境を提供するため、奨励金を月額14.85万円支給します。学業成績の優秀な修士課程の学生には最大月額24.3万円まで、博士課程の学生には最大18万円まで支給いたします。また、Qualifying Examinationに合格した博士後期課程の学生には、在学中研究費として、年45万円を支給いたします。さらに博士論文作成のために海外留学、フィールド調査、ヒアリング調査等を希望する学生や、国際機関などにおけるインターンシップを希望する学生に対しては、必要に応じて経済的な支援を行います。また、授業料等免除の特例措置もあります。

全国及び世界各国の指導的人材を養成

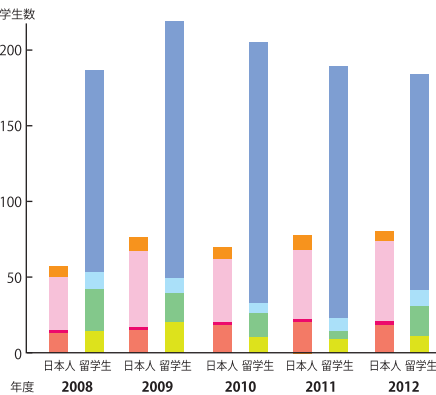
GRIPSには、新卒者や民間で経験を積んだ一般応募者のほか、政策分析のプロフェッショナルとしてそれぞれの職場で革新をもたらすための知識を得るため、中央省庁や独立行政法人、全国30以上の地方自治体等から、若手行政官が派遣されてきています。また、本学の学生の60%以上は、世界60以上の国や地域から来ている留学生で、その多くは自国での政策に携わっている行政官です。

出身国や文化、話す言語は異なっても、政策プロフェッショナルとして目指す未来への想いは同じです。留学生との交流を通して、異文化を肌で感じながら、グローバルな視点から未来を創る政策について考えることができる環境が、GRIPSにはあります。

入学願書締め切り：2014年5月27日

募集要項入手先：本学募集要項ウェブサイト

<http://www.grips.ac.jp/jp/admissions/guidelines/>



日本人
● 中央省庁
● 地方公共団体
● 独立行政法人
● 新卒・企業等

留学生
● 中央省庁・公的機関等
● 地方公共団体
● 教育・研究機関
● 新卒・企業等

学生派遣元・所属（修士課程・入学時）



私は国連大使を務めていた頃、文化、国籍、宗教、言語を超えて、問題点を抽出するだけでなく、皆が納得できる妥協案まで提示できるような、最高レベルのリーダーに何人か出会いました。そしてそのような人材を、東西文明の交差する日本で、ぜひ養成してみたいと考えるようになりました。本プログラムは、そのような人物を、自覚的、客観的に、またスピーディーに育成しようとする、野心的な試みです。

北岡 伸一

政策研究科教授、学長特別補佐、プログラム責任者



このプログラムには新しい試みが満載です。例えば、チュートリアルはごく少人数で行うものですので、学生は黙っていることが許されません。毎回自らの意見を用意してきて教員を説得しなければなりません。逆に教員の側は知的な懐の深さが試されます。お互いに大変な試練ですが、学生一人一人の成長を実感できそうで教え甲斐があります。世界を舞台に活躍しようという志の高い学生を迎える2014年の開講を、心待ちにしております。

園部 哲史

政策研究科教授、学長特別補佐、プログラムコーディネーター



キャンパス

東京の中心地に位置する、静かな学びの舎

東京六本木にキャンパスを置くGRIPSは、日本の政策が形成される霞ヶ関に近く、その好立地が現役実務者や民間企業、また世界的に著名な研究者が集結する場を作っています。再開発が進み、アート、ショッピング、飲食等に便利な六本木に位置しながら、GRIPSは研究に集中できる、静かな環境にあります。

GRIPSの建物の設計は山下設計・リチャード・ロジャース設計共同体によるものです



六本木キャンパス

Photo：西川公明

学生支援

充実したサポート体制

アカデミックライティングセンター

国際化の進展の中で、これからの行政官、特に将来幹部となる行政官には、今後ますます国際舞台に出て活躍することが求められます。英語での交渉能力は必須であることから、GRIPSでは、アカデミックライティングセンターを設置し、外国人講師により、実践的英語力を修得させる授業や、文法の指導等を行っています。

日本語センター

日本語センター（Center for Japanese Language Learning; CJLL）は、日本の生活に慣れない留学生や既に日本語を習ったことのある留学生のために、日本語の授業を行っています。カリキュラムには文化体験やスピーチ大会なども含まれており多角的に日本を知る機会を提供しています。

保健管理センター

専任の医師と看護師が学生、教職員の健康相談に応じるとともに、怪我や急病等の応急処置等を行っています。また学生の要望に応じて、カウンセリングサービスの紹介を行っております。

学生用研究スペース

日本人学生と留学生が共同で利用する院生研究室が整備されており、それぞれコンピュータを備えた個人用のブースが用意されています。コンピュータは、在学中GRIPSから貸し出されるもので、学外に持ち出すこともできます。

屋内運動場

学生、教職員が利用できる屋内運動場を設置しています。



院生研究室



屋内運動場

修了生と同窓会

90以上の国と地域、3,000名以上の修了生

本学の同窓会は、本学の前身である埼玉大学大学院政策科学研究科の同窓会組織を引き継いでいます。修了生数は、98の国と地域3,430名にのぼり、同窓会は、世界各国の修了生、在学生、教職員を結ぶ結節点の役割を果たしています。同窓会活動を支援するための同窓会支援室を設置し、同窓会専用ホームページを開設するなど、積極的な情報発信によるコミュニケーションの充実に努めています。また国内外で年に数回、同窓会を開催し、教員・修了生間の新旧交流の場を設けています。海外での国別同窓会は、世界約90カ国で立ち上がっています。

比較的新しい大学にも関わらず、GRIPSの修了生は国内外でそれぞれの分野において、目覚ましい活躍をしています。それぞれの国で行政官として上級ポジションに就いた修了生も数多くいます。2010年にはブータン出身の本学修了生が、世界経済フォーラムより贈られる2010年Young Global Leader賞を受賞しました。今後も修了生が増えていくにつれ、全国及び世界中で活躍するGRIPS修了生のネットワークが広がっていくことが期待されます。

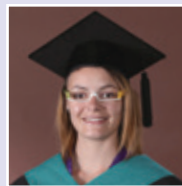


GRIPS 修了生の声



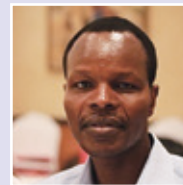
Ahmad Rozian Abd. Ghani, Malaysia
Undersecretary, Department of Information and Public Diplomacy, Ministry of Foreign Affairs
Young Leaders Program, 2004

“The intellectual discourses we had at GRIPS with professors and staff, guest speakers, and fellow participants were diverse and interesting. Exchanges of views and experiences took place almost on a daily basis and the more you meet people, the more you learn.”



Anca Popa, Romania
Attaché, Economic Diplomacy Division, Ministry of Foreign Affairs
Young Leaders Program, 2010

“As a YLP student, I felt both challenged and privileged to be part of the GRIPS network. The academic excellence, the courses relevant to public policy, and the unique opportunities to connect with the Japanese community leaders have enriched my knowledge and experience.”



John Akoten, Kenya
Deputy Director for Research, Awareness & Preventive Services, Anti-Counterfeit Agency, Ministry of Industrialization
International Development Studies Program (MA & Ph.D.), 2005

“Opportunities only knock once. Make use of the time at GRIPS to excel in academic work, learn as much as possible from the skilled and experienced professors, and interact with fellow students. Identify and focus on development issues that will benefit your country upon your return. But also, discover Japan by taking time off to visit various places.”



Tashi Wangmo, Bhutan
Member, National Council of Bhutan
Public Policy Program, 2003

“My study at GRIPS enabled me to understand what public policy is all about and in fact it opened up a whole new world to my professional life, which basically made me fancy becoming a public policy analyst one day.”

GRIPSデータ

GRIPS基本データ

(2013年4月1日現在)

主な入学時期：4月または10月
学生数：日本人 144 留学生 273
学生の出身国・地域数：67
授業言語：日本語または英語*
教員数：74
外国人教員：11
海外で学位を取得した日本人専任教員数：23
海外教育・研究機関等との交流協定：24

※ 基本的にどちらの言語の授業も受講することができます

GRIPS 沿革

- 1977年 政策研究大学院大学 (GRIPS) の前身、埼玉大学大学院政策科学研究科 (GSPS) 設立
- 1997年 政策研究大学院大学 (GRIPS) 設立 (1999年に東京新宿若松町にキャンパス移転)
- 2000年 最初の修士学位授与
- 2003年 最初の博士学位授与
- 2005年 東京六本木にキャンパスを移転

学生数

(2013 年 4 月 1 日現在)

	日本人	留学生	合計
修士課程	94	202	296
博士課程	42	30	72
5年一貫博士プログラム	8	41	49
合計	144	273	417

出身国別修了生数

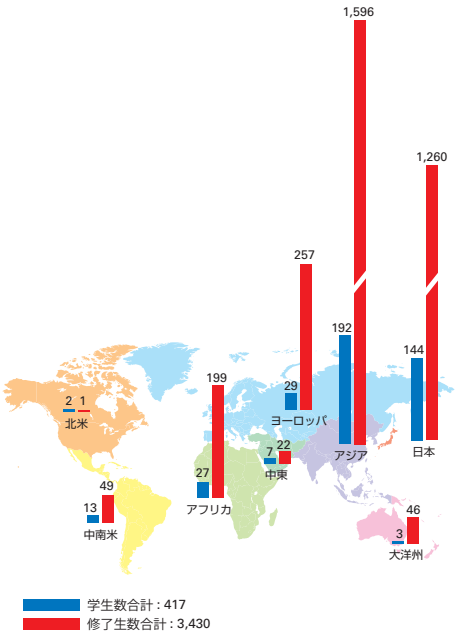
(2013 年 4 月 1 日現在)

日本	日本	1,260								
アジア (21の国と地域)	インド	38	インドネシア	305	韓国	54	カンボジア	72	シンガポール	8
	スリランカ	42	タイ	125	台湾	1	中国	174	ネパール	55
	パキスタン	67	バングラデシュ	95	フィリピン	135	ブータン	22	ブルネイ	2
	ベトナム	130	マレーシア	96	ミャンマー	74	モルディブ	6	モンゴル	68
	ラオス	27								
北米(1ヵ国)	アメリカ合衆国	1								
中南米 (14ヵ国)	エクアドル	1	エルサルバドル	11	キューバ	1	グアテマラ	2	コスタリカ	2
	コロンビア	3	ジャマイカ	1	ドミニカ共和国	4	ニカラグア	4	ハイチ	1
	パラグアイ	1	ブラジル	5	ペルー	12	メキシコ	1		
欧州 (NIS諸国含む) (26ヵ国)	アイスランド	1	アゼルバイジャン	6	アルバニア	2	イタリア	2	ウクライナ	6
	ウズベキスタン	74	オランダ	1	カザフスタン	38	キルギスタン	52	グルジア	8
	スイス	1	スロバキア	3	セルビア・モンテネグロ	1	タジキスタン	15	チェコ	8
	ドイツ	2	トルクメニスタン	3	ハンガリー	5	ブルガリア	6	ポーランド	9
	マケドニア	2	モルドバ	2	ラトビア	1	リトアニア	1	ルーマニア	7
	ロシア	1								
大洋州(5ヵ国)	オーストラリア	34	サモア	1	ニュージーランド	1	バヌアツ	1	フィジー	9
中東 (7ヵ国)	アフガニスタン	6	イエメン	1	イラン	1	サウジアラビア	2	シリア	2
	トルコ	9	ヨルダン	1						
アフリカ (23ヵ国)	アルジェリア	2	ウガンダ	20	エジプト	8	エチオピア	23	ガーナ	23
	カメルーン	1	ギニア	1	ケニア	28	コートジボワール	3	ザンビア	27
	シエラレオネ	3	ジンバブエ	17	スーダン	2	タンザニア	26	チュニジア	1
	ナイジェリア	3	ブルンジ	1	マダガスカル	3	マラウイ	1	南アフリカ	2
	モーリシャス	1	モザンビーク	2	レソト	1				

合計：98の国と地域 3,430名 ※埼玉大学大学院政策科学研究科修了生数を含む。



上ノ旧 GSPS キャンパス（埼玉） 下ノ旧若松町キャンパス



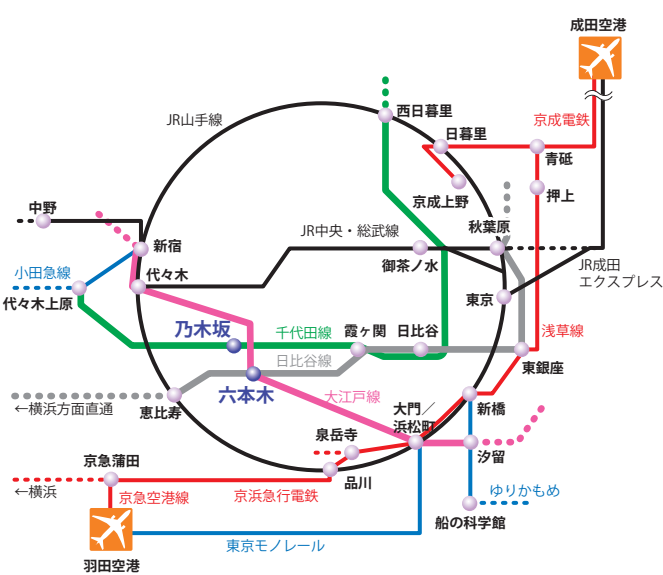
キャンパスの周辺情報



アクセス

都営大江戸線 六本木駅 7出口 徒歩5分
東京メトロ日比谷線 六本木駅 4a出口 徒歩10分
東京メトロ千代田線 乃木坂駅 5出口 徒歩6分

成田空港から成田エクスプレス利用、東京經由六本木まで約1時間30分
成田空港から成田スカイアクセス利用、日暮里經由六本木まで約1時間15分
羽田空港から東京モノレール利用、六本木まで約40分
東京駅から六本木まで約17分



政策研究大学院大学
〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1 tel: 03-6439-6000（代表） fax: 03-6439-6010（代表） URL: <http://www.grips.ac.jp/>

政策研究大学院大学アドミッションズオフィス
tel: 03-6439-6046 fax: 03-6439-6050 E-mail: admissions@grips.ac.jp

発行：政策研究大学院大学 デザイン・DTP：安藤 聡（pickles design）印刷：よしみ工業株式会社 © National Graduate Institute for Policy Studies 2014